

ランズビーひるがの 建物紹介

(土木建築部 建物計画・建築G、
岐阜支店 工務部 建築課)

Introducing "Lansby Hirugano" Creation of Amenity Facilities

(Civil & Architectural Engineering Department,
Architectural Planning & Designing Group,
Gifu Branch Office, Electrical Engineering
Department, Construction Section)

スキップしたくなるような楽しい施設づくり

平成6年12月1日、岐阜県ひるがの高原に当社の増健保養施設“ランズビーひるがの”がオープンした。ここでは、設計コンセプトの構築から配置計画、建物形状、色彩計画と建築物への具現化に至る過程を紹介し、この施設の利用がさらに興味深いものとなることを願うものである。

On December 1, 1994, our health recreation facility "Lansby Hirugano" opened in the Hirugano Hills in Gifu prefecture. Here we introduce the process from its design concept, layout plan, building structure, color scheme, to its final realization, and we hope this will help make your use of this facility much more interesting.

1 設計コンセプトの構築

ひるがの高原は、西に鷲ヶ岳、東に大日岳をいただき、湧水豊かで湿原植物が群生し、春のミズバショウ、夏の深緑、秋の紅葉、冬には一面の銀世界と四季折々の雄大な自然の風景が我々を向かえてくれる。“ランズビーひるがの”はこの大きな自然を大切にしようと『自然との調和』をコンセプトに設計を進めた。

2 配置計画と建物形状

外部空間については、自然の地形を生かし、開発面積を最小限にして、もとのスカイラインを乱さないことに配慮した。このため建物高さを抑え、共用棟と宿泊棟をハの字に分散配置して透明な空中ブリッジで結んでいる。(第1図)

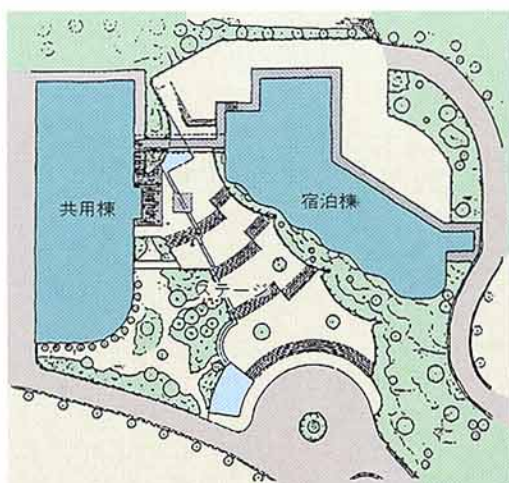
また、2つの建物の間の斜面は、既存の樹木を残し、自然の沢を取り込んで、柔らかな曲線からなる建物と

一体になりながら、自然と利用者を優しく包み込む『緑と水と風と人が通り抜ける』スキップステージと位置付けている。

内部空間については、共用棟のアトリウムを3層吹抜の大きなガラス張りとし、太陽の光がいっぱいに入り込んで、外の様子が前にとるようにわかり、夜は建物から漏れ出る灯が雪面を優しく照らす。自然が内へ流れ込み、建物内部が外へ流れ出て外の自然と内部空間が重なり合うようにしている。(第2図)

3 カラーコンセプトの構築

内装は、『自然との調和』のコンセプトをもとに『楽しく飽きない施設づくり』をと“SKIP!”というキーワードを定め、第3図のようなS、K、I、Pを頭文字とする4つのカラーコンセプトにより“ランズビーひるがの”をトータル的にカラーコーディネートすることにした。



第1図 配置図



第2図 アトリウム内観



第3図 カラーコンセプト

4 スキップマークの設定

一方、“ランズビーひるがの”のシンボルマークとしてカラーコンセプトの詰まったスキップマークを設定した。(第4図)

形は、思わずスキップしたくなるような楽しい施設にしたいという気持ちを遊び心でデザインし、スキップのリズムを表現している。

色は、蛭ヶ野らしさの象徴の雪やミズバショウの白をバックに、春には敷地内でその可憐な姿を見せるサユリの花のピンクと葉のグリーンを用い、優しい色調でまとめている。そして、この3色をアイデンティティーカラーとした。

5 色彩計画

建物外壁の色は、アイデンティティーカラーの白とし、冬は真っ白な雪に溶け込み、夏には緑との対比の美しさが楽しめる。ステージは土の色に限りなく近いアースカラーを使い、自然に優しい配色を心掛けた。

(第5図)

建物内部は、森の小径ゾーンとスキップゾーンの2つにゾーニングされる。(第6図)

森の小径ゾーンは利用者の動線となる部分で、アトリウムガラスを通していっぱい自然が流れ込み、宿泊棟の廊下まで続いている。途中には広場(アトリウム)

ウム)や大きな水たまり(増健スペース)、沢を渡る吊り橋(透明ブリッジ)があり、シースルーエレベーターからは、素晴らしい眺望も楽しみ、建物内部でありながら、森の中を散策している気分で歩けるようにアースカラーを基調にコーディネートした。

クアハウスやレストランなどスキップゾーンは、一歩足を踏み込むと人々の気持ちもスキップするように、それぞれの場面に合わせて遊び心のある色使いをし、変化に富んだ空間となっている。



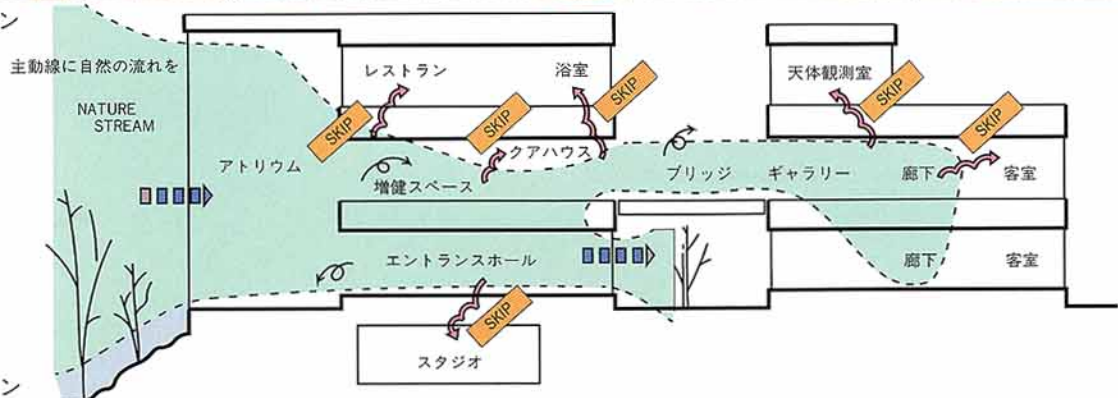
第4図 スキップマーク



第5図 外観



◎スキップゾーン



◎森の小径ゾーン



第6図 建物内部の色彩計画